

初秋採りブロッコリーの適品種と栽培法							
<p>【要約】 初秋採りのブロッコリーとして、品種は「ブルーボーイ」と「グリーンコメット」が優れる。播種期は7月10日以降が望ましい。早採りのための7月初旬播種では、出蕾期以降に遮熱資材を株の上にトンネル状に被覆し、かん水を励行すると小花の黄化・枯死の発生は少なくなる。</p>							
園芸研究所・野菜花き部・野菜品種研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専門	栽 培	対象	花菜類	分類	普及

【背景・ねらい】

本県での、9月から10月上旬にかけてのブロッコリーの頂花蕾の生産は極めて少なく、M級以上の花蕾の周年生産による安定供給が困難となっている。そのため、初秋採り用ブロッコリーの適品種を選定するとともに、早採りのための播種期の限界及び小花の黄化・枯死の発生が少ない栽培法を確立する。

【成果の内容・特徴】

- ①初秋採り用の品種で、早採り用としては「グリーンコメット」が適している。また、品質的には「ブルーボーイ」が花蕾の盛り上がり、凹凸、締り具合で優れている（表1）。
- ②頂花蕾を9月から10月にかけて収穫する作型では、6月播種は本圃での高温により花蕾小花の黄化・枯死等の障害花蕾が多く発生するので、7月10日以降の播種が望ましい（表2）。
- ③7月初旬播種の場合、花蕾小花の黄化・枯死の発生防止には、本圃において出蕾期である9月初めからの遮熱資材によるトンネル被覆が有効であり、これにかん水を励行すると花蕾の肥大が促進される（図1）。

【成果の活用面・留意点】

- ①品種と播種期及び栽培法を組み合わせることにより、作柄が安定するとともに、一部9月採りの作型が可能となる。
- ②遮熱資材は、トンネル金を利用してブロッコリー株の上面50cm前後のみに被覆し、トンネルの側面は開ける。

[具体的データ]

表1 品種と収穫時期及び花蕾の特性 (平成2年)

品 種 名	収 穫 平 均	花 蕾	盛 り	花 蕾	小 花	小 花	花 蕾	花 蕾	障 害 の 発 生 等	
	盛 期	花 蕾 重	長 径	上 が り	凹 凸	大 き さ	揃 い	色 締 り		
	月 日	g	cm							
グリーンコマット	9,21	165	11.8	下・中	3	大	2	4	3	Yの発生・軽
ブルーベリー	9,25	184	12.5	中	4	中	2	4	3	Yの発生・軽
ラントスター	9,28	116	8.8	中	4	大	3	5	4	
てんじく	9,22	154	11.3	中・下	3	大	2	3	3	花蕾色やや淡い
S-130	10, 1	152	10.3	上・中	4	中	3	4	4	
おませ	9,28	140	10.8	下	2	小	2	3	3	花蕾色淡く、Yの発生・甚
マーシャル	10, 1	262	14.1	下・中	2	小	1	2	2	花蕾色淡く、LとYが甚
はなもり	10, 2	168	11.8	下	2	中	2	3	2	LとYが甚、Fトシの発現

注)①播種期:7月1日 ②花蕾の凹凸:5(良)~1(劣), ③小花の大きさ:大・中・小,

④小花の揃い:3(良)~1(劣), ⑤花蕾の色:5(濃)~1(淡), ⑥花蕾の締り:5(良)~1(劣),

⑦L:リーフの略、Y:小花の黄化・枯死の略。

表2 播種期と収穫盛期及び小花の黄化・枯死花蕾の発生 (平成2・4年)

播 種 期	収 穫 盛 期		小 花 の 黄 化 ・ 枯 死	
			花 蕾 の 発 生 率	
	2年	4年	2年	4年
	月 日	月 日	%	%
6月25日	9,14	-	75.0	-
7月1日	9,21	9,27	33.3	16.6
7月10日	10, 5	10,13	5.0	0

注) 品種:グリーンコマット

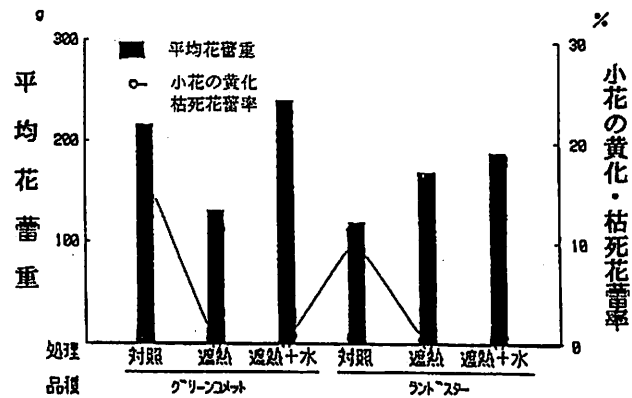


図1 栽培法と花蕾重及び小花の黄化・枯死花蕾の発生 (平成4年7月1日播種)

注) ①試験区の内容

対照: 無処理

遮熱: 遮熱資材(ビアスライカ 光線透過率70%)を株上から被覆

遮熱+水: 遮熱資材被覆+pF2.2でかん水処理

②遮熱資材の被覆は8月1日より

[その他]

研究課題名: ブロッコリーの9月及び4月採り作型の開発

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度 (平成2~4年)

研究担当者: 林 三徳、伏原 肇、柴戸靖志

発表論文等: 平成2~4年度園芸研究所野菜花き部野菜品種研究室試験成績書